

# 中国：引き続き世界経済をけん引する見通し

## ポイント① 今後は沿海部以外の高成長に期待

日本の約26倍の国土と約13億人の人口を擁する中国では、1億総中流といわれる日本とは異なり、経済の発展水準にも地域間で大きな差がみられます。近年目覚ましい発展を遂げた沿海部※と沿海部以外の地域の1人当たりGDP(域内総生産)をみると、沿海部の約10,800米ドルに対し、沿海部以外では約6,400米ドル(2014年、年末の為替レートで米ドル換算)と大きな開きがあります。

1人当たりGDPの水準からは、今後、沿海部以外の地域の経済発展の余地が大きいと思われ、都市化の推進やインフラ整備など適切な政策が打たれていけば、高成長の持続が期待されます。先行した沿海部の成長率が鈍化していくことは避けられませんが、沿海部以外の地域の高成長が実現すれば、中国経済全体として、比較的高水準の成長率を維持していくことは可能でしょう。

## ポイント② 第三次産業の構成比が拡大

産業別名目GDPの推移からは、中国経済の構造面の変化がみてとれます。中国は「世界の工場」と呼ばれ、これまでは工業製品の輸出をてこに高成長を遂げてきましたが、近年は経済のサービス化が進展、2012年以降、第三次産業の生産額が第二次産業を上回っています。第三次産業の構成比拡大は、雇用の点からも経済の安定に寄与すると考えられます。

## ポイント③ 引き続き世界経済をけん引

成長率自体は、従前の高水準からの鈍化が見込まれる中国経済ですが、世界の経済成長への寄与度は高まる傾向にあります。

2014年の中国の名目GDPは米国の6割程度に達しています。また、鈍化するとは言え、2015年から2020年にかけて、中国経済は実質ベースで年6%台の成長率を維持するとIMFでは予想しており、2020年の名目GDPは2014年比6.7兆米ドル増加すると予想しています。米国の4.9兆米ドル増を上回り、引き続き世界経済最大のけん引役となる見通しです。

※ 沿海部：北京市、天津市、上海市、河北省、山東省、江蘇省、浙江省、福建省、広東省、海南省

図1：中国の沿海部・沿海部以外の名目GDPの推移

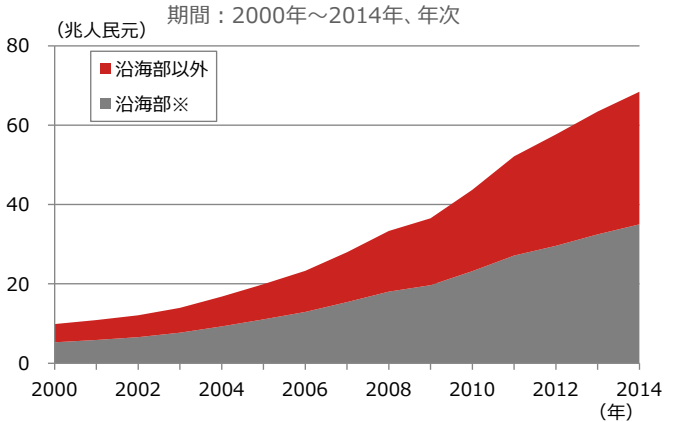


図2：中国の産業別名目GDP構成比の推移

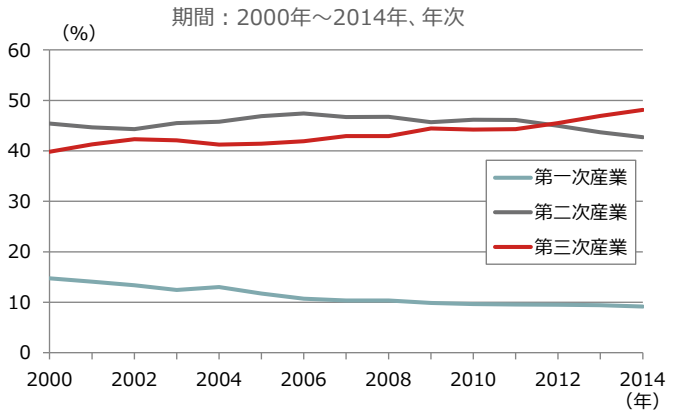
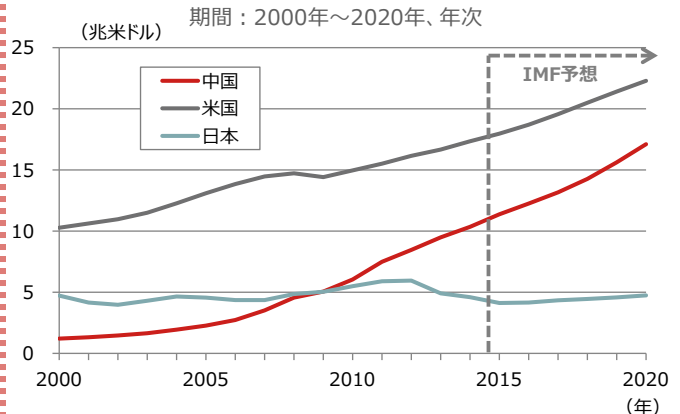


図3：中・米・日の名目GDP(米ドルベース)の推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。